

養殖ヤマドリ放鳥後の テレメーター追跡結果

東京都

東京都の鳥獣保護事業計画では、昭和四

十八年度より放鳥獣のひとつにヤマドリが加えられ、人工受精で増殖し放鳥されたヤマドリの累計は約三六〇〇羽となった。

ヤマドリの増殖は、人工受精により種禽約一二〇羽(雄三〇、雌九〇)から五〇〇余羽の三カ月令雛を生産できるようになり、さらに自然交配による増殖を試験中である。

一方放鳥後のヤマドリの野生化は、猟期中の翼帯や脚帯の回収により記録してきたけれども報告が少く不明な点が多いので、テレメーターにより生存状況を追跡した。

ヤマドリは、キジと異なり山間地の溪谷を生息適地としており、追跡調査が困難であったが、電波発信機の長寿命化や追跡技術の習得によって

延べ四六羽を追跡した。

生存日数(≡追跡日数)は、鳥の月齢によつて大きく異なり、三カ月齢は最大一四日、死亡原因は、天敵食害、衰弱死、溺死であった。

六〜七カ月齢以上の生存日数は、最大一四一日を記録し、長期生存が多く、死亡原因は、衰弱死や溺死がなく、ワシタカやキツネなどの食害、射殺、交通事故であった。また電池切れによる追跡不能の個体は野生化した可能性が高い。

しかし、生存日数は、一九八八年一二月放鳥例のように、七カ月齢でも短いことがあった。この年の秋の寒り(ドングリなど)は全く確認できなかった。

また、生存日数は、放鳥環境の地形の影響を受けていると思われる。緩傾斜地よりも急傾斜地において生存日数は長いように思われた。

今後、環境と生存状況との関係について調査する予定である。

(東京都林業試験場 遠竹行俊)

テレメーター追跡結果

月齢	6か月齢	6か月齢	3か月齢	3か月齢	7か月齢	7か月齢	7か月齢
立地	丘陵二次林 (緩傾斜地)	山地・植林地 (急傾斜地)	丘陵・植林地 (緩傾斜地)	山地・植林地 (急傾斜地)	山地・植林地 (急傾斜地)	山地・植林地 (急傾斜地)	山地・植林地 (急傾斜地)
放鳥年月	'81.11.	'85.10~11	'86.8.	'87.8.	'87.12.	'88.12.	'88.12.
性別	♂ ♀	♂ ♀	♂ ♀	♂ ♀	♂ ♀	♂ ♀	♂ ♀
羽数	3 1	4 1	4 1	5 5	2 1	6 2	4 2
生存日数							
平均値	37.7 5	56.3 3	6.8 3	5 8.2	24.5 21	13 13	13.5 18.5
最小値	15 -	3 -	3 3	1 1	21 -	1 9	3 16
最大値	-67 -	141 -	8 -	14 14	28 -	32 17	17 21
死因							
不明	2 1	- -	- -	- -	1 -	5 1	2 1
衰弱	- -	- -	2 1	- 3	- -	- -	- -
溺死	- -	- -	- -	2 -	- -	- -	- -
食害	1 -	4 1	2 -	3 2	- 1	- 1	2 1
射殺	- -	- -	- -	- -	1 -	- -	- -
交通事故	- -	- -	- -	- -	- -	1 -	- -

(食害：イタチ、キツネ、ワシタカ等)